

令和2年度

支笏湖・定山溪地区自然体験推進協議会運営等業務

報告書

概要版

令和3年3月

株式会社ライヴ環境計画

1. 業務の目的

環境省では、政府が平成28年3月30日にとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標とした「国立公園満喫プロジェクト」を展開している。2020年までに国立公園を訪れる外国人を1,000万人にするという目標を達成するため、平成29年度、支笏洞爺国立公園の支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置して取り組みを進めることとなり、「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進プログラム」（以下、「推進プログラム」という。）を策定した。

本業務は、当該協議会の運営や必要な調査等を行って、推進プログラムの取り組みを進めるために行うものである。

2. 支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進協議会の開催運営

推進プログラムの取組を進めるため、協議会に関する会議を以下のように開催した。

支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進協議会の開催概要

会議名	日時	場所	議事内容
登山道の保護・利用に関する意見交換会	令和2(2020)年 11月30日 13:30～15:30	札幌国際ビル8階 国際ホール	(1) 支笏湖・定山溪地区の主要登山道の現状について (2) 登山道に関する意見交換
定山溪地区部会	令和3(2021)年 1月19日 10:00～12:00	オンライン会議 札幌地方環境事務所 会議室	(1) 推進プログラムの経過について (2) 推進プログラムの2019年度までの総括 (3) 感染症拡大による影響とその対策等について (4) 仮称)自然体験活動推進プログラムについて
支笏湖地区部会	令和3(2021)年 1月19日 13:30～15:30	オンライン会議	
協議会	令和3(2021)年 3月2日 14:30～16:30	オンライン会議 札幌地方環境事務所 会議室	(1) 推進プログラムの経過について (2) 推進プログラムの2019年度までの総括 (3) 感染症拡大による影響とその対策等について (4) 協議会設置要綱の改定について (5) 推進プログラムについて

2-1. 登山道の保護・利用に関する意見交換会の開催

登山道は、「自然発生的に形成され、あるいは、登山とは別の目的で設置された道が、登山のために恒常的に利用されている、山頂に至る道」と考えられ、維持管理の仕組みや体制が明確でないなどの課題を有している。協議会構成員メンバーのほか、登山道に関わる関係機関として北海道警察、札幌市スポーツ局、山岳団体交流会・登山道整連絡会の参加を得て、支笏湖・定山溪地区の登山道の現況（登山道の概況、各種指定状況、遭難の状況や救助体制等）を共有し、構成員メンバー、山岳関係機関の間での情報交換、意見交換が行われた。

2-2. 支笏湖地区・定山溪地区部会及び協議会の開催

令和元年度末からの新型コロナウイルス感染拡大により、国内外の旅行需要が見通せない状況にあることから、2020年度を目標としてきた推進プログラムについて、2019年度に前倒して、指標目標値の達成状況や構成員の取組の成果について総括した。これを踏まえ2025年をめどとした次期推進プログラム素案を作成し、部会及び協議会にて協議の結果、新たな推進プログラムが策定された。

(1) 推進プログラムの2019年度までの総括

1) 指標目標値の達成状況

① 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の訪日外国人利用者数（年間推計利用者数）

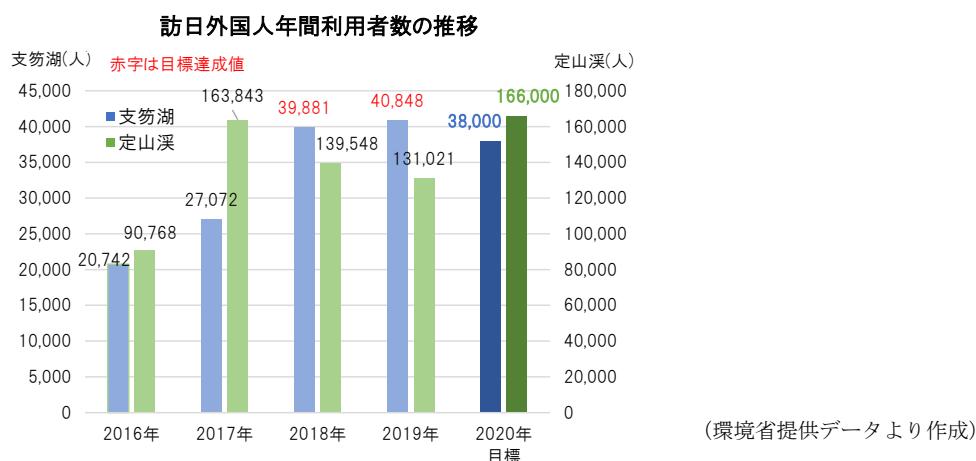
【支笏湖地区： 2020年目標値 38,000人】

2018（平成30）年、2019（令和元年）年に目標値 38,000 人を上回り、目標は達成された。

【定山溪地区： 2020年目標値 166,000人】

平成29（2017）年は目標値 166,000 人に近い 16 万人台であったが、その後 13 万人台となった。

図 2-1 訪日外国人年間利用者数の推移



※利用者数の数値は12月までの推測値であり、コロナ禍の影響をほぼ受けていないものと思われる。

② 支笏湖地区及び定山溪地区の訪日外国人宿泊客延べ数

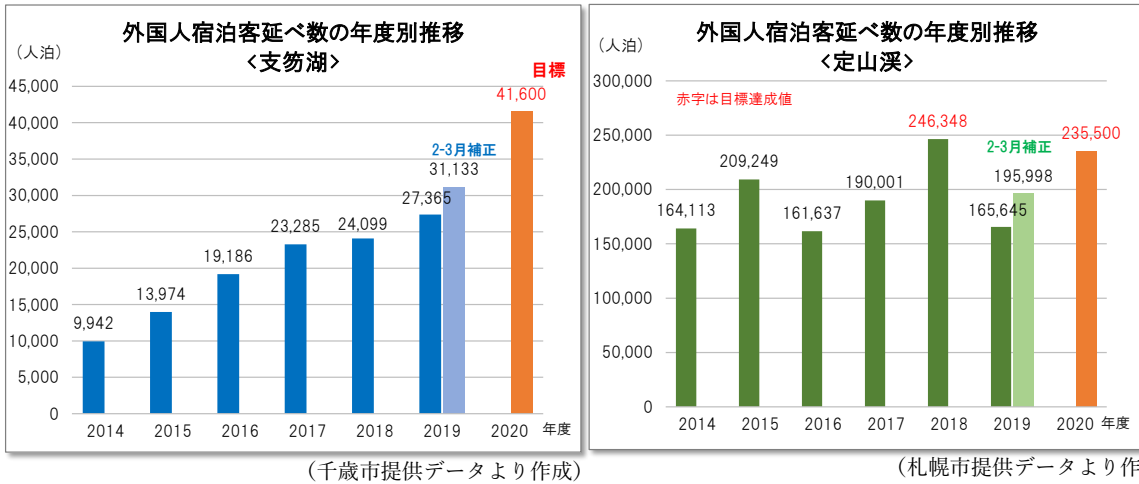
【支笏湖地区： 2020年目標値 41,600人泊】

2019年度はコロナ禍の影響があったが宿泊客延べ数は増加しており、2020年2月及び3月のコロナ禍の影響を補正すると約 31,000 人泊となった。しかし、2020年目標値には及ばなかった。

【定山溪地区： 2020年目標値 235,000人泊】

2018年度は胆振東部地震の復興割の影響もあり目標値の 235,000 人を超えたが、2019年度は補正值でも約 196,000 人とどまった。

図 2-2 外国人宿泊客延べ数の推移



(千歳市提供データより作成) (札幌市提供データより作成)

※延べ宿泊者数の補正：コロナ禍の影響を受けた2019年度の2-3月の数値を、過去3年間2016-2018年度の2-3月の平均比率で算出し、影響を受けていなかったと仮定した2-3月数値による2019年度合計値を算出。

③ 支笏湖地区及び定山溪地区の訪日外国人利用者の平均泊数

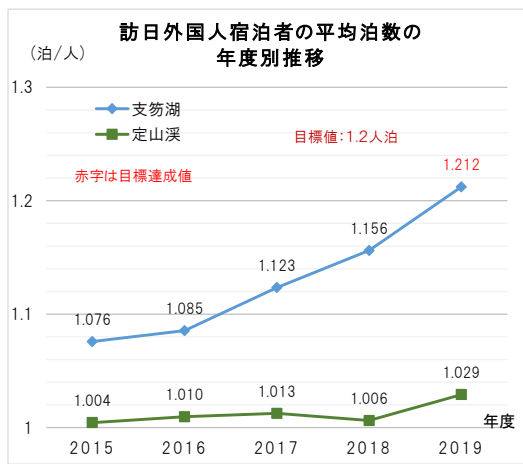
【支笏湖地区： 2020年目標値 1.2泊】

平均泊数は増加傾向にあり、2019年度に2020年度目標値 1.2 を達成した。

【定山溪地区： 2020年目標値 1.2泊】

平均泊数は1.01前後を推移しており、2019年度は1.029とやや増加したが、目標値には達しなかった。

図 2-3 外国人宿泊客の平均泊数の推移



(千歳市及び札幌市提供データより作成)

2) 構成員による取組の事業の主な成果

平成 29 (2017) 年度から取り組まれてきた事業の成果は、以下の 9 つに分類された。

- ・ アドベンチャートラベル (AT) の推進
- ・ 観光案内所等における継続的な情報発信・情報提供
- ・ 案内や標識等の多言語化や Wi-Fi 環境の整備
- ・ 海外へのプロモーション、支笏湖・定山溪地区の情報発信
- ・ 自然体験プログラムの継続開催・企画・開発・調査等

- ・ 利用ルールの普及・啓発
- ・ 滞在・利用空間の施設や景観の整備、充実
- ・ 国立公園周辺地域の利用推進と連携
- ・ 人材育成と利用推進のための組織強化

(2) 新たな推進プログラムの概要

2025年度を目標として策定され新たな推進プログラムの「目標」「取組」の箇所を抜粋して、以下に記載した。

1) 目標

① 将来像とターゲットとする利用者

【将来像】

北海道の玄関である新千歳空港や、大都市札幌に近接しているという利便性と、原始性が高く静寂な自然環境やフォトジェニックな自然景観を活かし、さらに、国立公園外の自然体験施設や文化施設との連携を深めることにより、カヌー、ダイビング、トレッキングやハイキング、サイクリング、バックカントリースキー、ネイチャーフォト、果物狩りなど多彩かつ満足度の高い自然体験プログラムを提供する。それにより、国内外の多様な国・地域から旅行者が訪れ、自然体験活動への参加やワーケーション等の様々な形態で滞在し、地域の観光や関連産業を活性化させる。同時に、国立公園における適切な利用と自然環境保全の仕組みを構築し、持続可能な地域づくりを進める。

【ターゲットとする利用者】

感染対策のため国内外の移動が制限されるコロナ禍においては、旅行需要の回復状況による三つの段階、そしてコロナ終息後の段階、あわせて四つの段階に分け、以下のように、ターゲットを想定する。

<段階とターゲット>

段階Ⅰ(近郊需要開拓期)：国内での移動が制限される時期

対象：日帰り利用が中心であった近郊在住者

段階Ⅱ(国内需要回復期)：海外移動は制限されるが、国内需要は回復する時期

対象：道内、道外在住者

段階Ⅲ(海外需要回復期)：一部の国・地域を除き、海外需要が回復する時期

①対象：コロナ禍前と同様のアジア圏旅行者（中国、韓国、台湾、香港等アジア圏）

②対象：自然と温泉を楽しむアジア富裕層（①及び②は、コロナ禍以前の主要な外国人旅行者層）

③対象：持続可能な観光を志向する旅行者

段階Ⅳ(完全回復期)：

①対象：コロナ禍前と同様のアジア圏旅行者（中国、韓国、台湾、香港等アジア圏）

②対象：自然と温泉を楽しむアジア富裕層

③対象：持続可能な観光を志向する旅行者

④対象：充実した自然体験を求める欧米圏旅行者

（アドベンチャートラベル旅行者：自然の中で滞在とアクティビティを志向する旅行者等）

【基本方針】

将来像を実現するための7つの基本方針

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| (1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知 | (2) 自然体験プログラムの充実 |
| (3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理 | |
| (4) サステナブル・ツーリズム(持続可能な観光)の実現 | |
| (5) 多様な滞在スタイルの推進 | (6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携 |
| (7) 自然体験活動の推進体制を強化 | |

【指標目標値】

	指標	期間	支笏湖地区	定山溪地区
目標値1	宿泊客延べ数：人泊	年度	157,000	1,138,000
目標値2	日帰り利用者数：人	年度	913,000	419,000
目標値3	季節変化 (最少月宿泊客延べ数/最多月宿泊客延べ数)	年度	50/100	70/100
目標値4	訪日外国人旅行者数	年	40,000	131,000
目標値5	訪日外国人宿泊客延べ数	年度	27,000	209,000

2) 取組

上記の7つの基本方針を踏まえ、100に近い取組の事業が構成員によって進められることになった。

3. 登山道カルテの作成

3-1. 調査の目的と調査対象

登山道は、国立公園の主たる自然体験の場であることから、利用の増減や気象災害等による影響の把握、及びこれらの予防対策や対応措置を効果的に講ずるため、以下の5つの登山道7コースを対象として、現地踏査を行い、登山道カルテを作成した。

- ・ 無意根山登山道（薄別コース、元山コース）
- ・ 神威岳登山道
- ・ 朝日岳登山道（岩戸公園コース・豊林荘コース）
- ・ 夕日岳登山道（定山溪神社コース）
- ・ イチャンコッペ山登山道

3-2. 調査内容

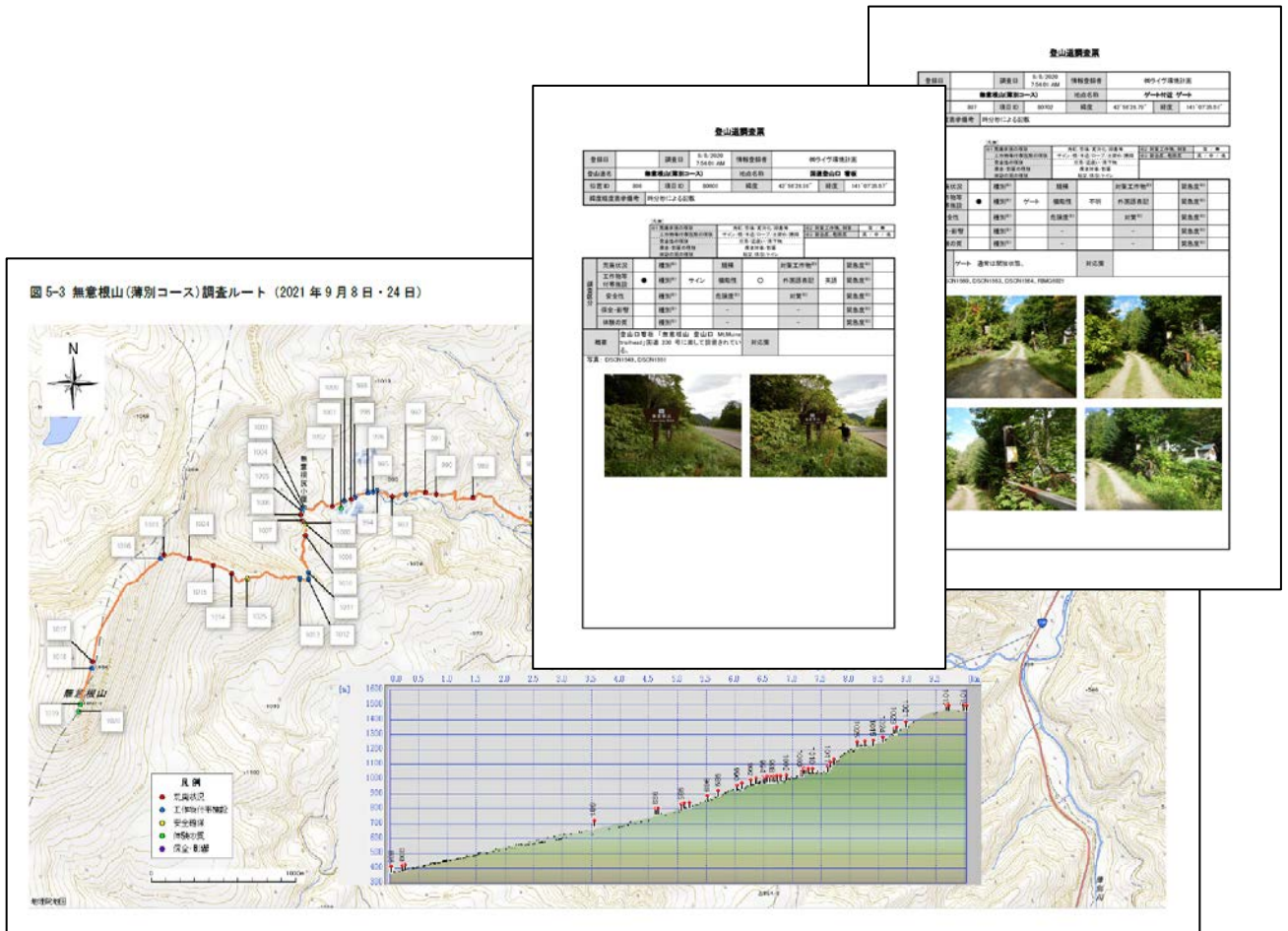
対象登山道の概要、自然公園法等の指定状況、利用に関する情報、遭難救助対応の状況について整理するとともに、カルテの記録項目として以下の5つの項目を設定し記録した。

①荒廃状況	登山道の状況(侵食・洗堀、複線化、泥濘化、踏圧による裸地化等)と対策工作物の有無
②工作物付帯施設	工作物の現況
③安全性の確保	危険個所の状況
④自然環境の保全状況	自然環境への影響地点や留意すべき動植物の状況
⑤体験の質	体験の質(快適性)を確保する場所等

3-3. 調査結果

(1) 地点別のカルテの例

上記の5つの項目について記載した地点別カルテ及び位置図の一例を以下に示した。



(2) 登山道別の全体カルテ

地点別カルテをもとに、①登山道(コース名)、②荒廃状況、③工作物付帯施設、④安全性の確保、⑤自然環境の保全状況、⑥体験の質、これら5つの項目、及び⑦利用状況を踏まえて、⑧全体評価等として、評価と対応策を記した登山道別の全体カルテを次ページに示した。

①登山道	無意根山登山道 薄別コース
②登山道 荒廃状況	<p>泥浄化 11 箇所 ほかにぬかるみ対策の敷板設置区間(図 5-3 の 989 地点から 1010 地点) 洗堀 4 箇所 洗堀区間(図 5-3 の 1015 地点から 1024 地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 標高 1200m を超えた稜線付近から元山コース分岐付近にかけて、深さ 60 センチにも及ぶ洗堀が続いている。今後、洗堀が進むことが想定されることから、早い段階で登山道の流水対策と段差処理(「ステップアンドプール」等)の対応が求められる。 ➢ 大蛇ヶ原湿原の展望地点等、人の滞留する場所の泥浄化、湿原植生の踏みつけを防止するためにも、現状で設置されている敷板の更新、増設が必要がある
③工 作 物 等 付 帯 施 設	<p>対策工法(ぬかるみ対策の敷板) 7箇所 図 5-3 の 989 地点から 1010 地点の区間で約 400 枚の敷板が設置されている。 サイン 28 箇所 このうち破損のもの 3 外国語表示のもの 1(国道入口の看板) 梯子階段 3 箇所 / 橋 3 箇所(アルミ製 2、木製 1) / ロープ等 3 箇所/ ゲート 3 箇所 / その他 4 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 宝来小屋より上部から大蛇ヶ原湿原、無意根尻小屋付近までは、400 枚近く敷かれた敷板により、ぬかるみを感じることなく歩くことができる。敷板のない箇所の泥浄化を抑制するために、敷板の順次増設、更新が必要。 ➢ アルミ製梯子を利用した橋や、木製梯子を使用した階段が急斜面に設置されている。木製梯子の設置は、洗堀防止に役立っていると考えられる。これら施設の維持管理とともに、標高 1200m を超えた稜線部における洗堀の進行軽減、登山道の流水対策が必要である。 ➢ 外国語表示があったのは、国道入口の看板のみであった。老朽化が進み破損しているものが撤去されずにあった。サイン類は表示内容の確認も含め、定期的な更新が必要である。新たに看板を設置するさいは外国語併記が求められる。
④安全 性の 確保	<p>崩落(落石含む) 4箇所 / 道迷い 2箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 宝来小屋付近では、崩落や落石が生じている。大雨や地震直後は注意が必要であるが、現時点では注意喚起のマーキングを施し、現況を注視していく。 ➢ 宝来小屋からの登山道以外の道もあり、道間違い防止のため、登山道の方向表示を設置した方がよい。
⑤自然 環境 保全 (保全・ 影響)	<p>記録地点は特になし</p> <p>一般的な保全対策としては、大蛇ヶ原湿原植生への影響を考慮し、現状の木道(敷板)の更新や増設をおこない、ぬかるみを避けるために湿原へ立ち入ることがないように、登山道に誘導することが求められる。</p>
⑥体験 の質 (利用の 快適 性、景 観、文 化 性 など)	<p>アクセス 2箇所(バス停、駐車場) / 展望地や休憩できる小屋等 9 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 休憩や水の補給ができる無意根尻小屋の存在は、登山者にとって安心して登山できる環境を提供している。 ➢ 山頂には 2 か所の休憩広場があり、数十人が休憩できる。
⑦利用 状況	<p>・無意根尻小屋を拠点とした 3-4 月の積雪期の利用が多いと推測される(図 5-2 より)。 ・春から秋は、札幌近郊から車でアクセスする登山者が多いと推測される。</p>
⑧全体 評価 等	<p>一般的な評価・対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ぬかるみ地点の敷板や急斜面の梯子階段の設置、渡渉地点や滞水箇所における橋の設置等、必要な対応が施されている。 ➢ 標高 1200m を超えた稜線付近では、荒廃の進行を抑制するため、洗堀対応が必要となっている。

①登山道	無意根山登山道 元山コース
②登山道 荒廃状況	<p>泥浄化 9 箇所 薄別コースでは、泥浄化の多く箇所が敷板の対応がとられていたが、元山コースでは敷板設置はなく、対策がとられていなかった。図 5-4 の 1111 地点から 1119 地点の間は、ぬかるみが点在していることから、薄別コースと同様な敷板設置による泥浄化対策が求められる。</p> <p>洗堀 7 箇所 洗堀区間(図 5-4 の 1127 地点から 1133 地点) 標高 1000mを超えた稜線付近で、深さ 60 センチにも及ぶ洗堀が続いている。今後、洗堀が進むことが想定されることから、早い段階で登山道の流水対策と段差処理(「ステップアンドプール」等)の対応が求められる。</p>
③工作物等付 帯施設	<p>泥浄化や洗堀に対する対策工に関するものはなし</p> <p>サイン 28 箇所(外国語表示なし)/ ロープ等3箇所 / 橋 1 箇所 / その他 2 箇所 サイン 28 箇所のうち 11 は表示内容が古く機能していない。数十年前に設置されたと思われる表示板が数か所あり、撤去が必要である。 古い表示板は撤去されずにあるが、登山道の方向表示等の看板が少ないため、外国語を併記した表示のものの設置もしくは更新が必要。</p>
④安全性の確保	<p>崩落地 1 崩落地については、マーキングテープ等により注意喚起を図る。</p>
⑤自然環境保全 (保全・影響)	記録地点は特になし
⑥体験の質 (利用の快適性・景観・文化性など)	<p>アクセス 1 箇所(駐車場) / 展望地等 10 箇所 崩落地については、マーキングテープ等により注意喚起を図る必要がある。 標高 1100m地点の渡渉地点は、今後の状況を注視していく必要がある。</p>
⑦利用状況	・無意根小屋を利用できる薄別コースに比べ、利用者は多くないと推測される。
⑧全体評価等	<p>一般的な評価・対応策</p> <p>・薄別コースに比べ、ぬかるみ等の対策が施されていない。薄別コースと同様な敷板敷設が望まれる。</p> <p>・古い表示板がそのまま残されており、誤解や道間違いの原因になるため、撤去が望ましい。</p>

①登山道	神威岳登山道
②登山道 荒廃状況	<p>かかり木・倒木等 8 箇所 対策が必要なぬかるみや洗堀箇所は記録されなかったが、かかり木・倒木が確認された。 緊急性はないが、倒木の切断処理等により、快適な登山が可能となる。</p>
③工作物等付 帯施設	<p>泥浄化や洗堀に対する対策工に関するものはなし</p> <p>サイン 24 箇所(外国語表示なし)/ ロープ等 4 箇所 / ゲート、その他 3 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 古い看板がそのまま残置されたまま、新しい看板が設置されている箇所もあった。古い看板や破損した看板は、撤去が望ましい。 ➢ 山頂直下の急斜面には 10mほどのロープが 3 列に設置されていたが、この箇所はロープに頼らざるを得ないため、ロープの管理確認が必要である。 ➢ 新たに看板を設置するさいは、外国語併記が求められる。
④安全性の確保	<p>道迷い 2 箇所 / 崩落 1 箇所 陥没地 1 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ いずれもの箇所も緊急性は低い。 ➢ 崩落地については、大雨や地震の後の利用時は、注意が必要である。 ➢ 登山道と沢が交差する箇所、道間違い防止のマーキングや矢印の表示がなされている。
⑤自然環境保全 (保全・影響)	<p>希少植物 1 箇所 林道のすぐわきで、テンニンソウが確認された。沿道の比較的目立つ場所にあり、盗掘による消失が懸念される。 ※テンニンソウ(シソ科):8-9 月開花 北海道レッドリストで希少種に指定されている。</p>
⑥体験の質 (利用の快適性・景観・文化性など)	<p>展望地等 7 箇所 風待避所(百松沢小屋)1 箇所 / 樹名板 3 箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 紅葉時期などは百松沢橋からの眺望を楽しむことができる。この橋は車両の通行ができないため、車でアクセスする場合の駐車場がない。登山者は国道沿道の空き地に駐車している状況となっている。
⑦利用状況	<p>・10 月の紅葉時期の利用が多いと推測される(図 5-2 より)。</p> <p>・砥山ダムの水辺環境の散策利用も考えられる。</p>
⑧全体評価等	<p>一般的な評価・対応策</p> <p>・無意根山に比較して、泥浄化や洗堀等の荒廃は進んでいない。</p> <p>・倒木箇所では切断等の処理跡が確認され、倒木やかかり木の手入れ作業が行われている。</p> <p>・登山者用の駐車場がないため、駐車場の確保、明示が望まれる。</p>

①登山道	朝日岳登山道 岩戸公園コース・豊林荘コース
②登山道 荒廃状況	洗堀 3箇所 / 倒木・かかり木 14箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 岩戸公園コースの登山口からの最初の地点で、深さ 30 センチ、しばらく進むと深さ 60 センチの洗堀による段差が生じている。 ➢ 温泉街からの気軽な利用を想定すると、ステップを設置するなどの段差処理の対応が必要である。また、温泉街からの利用者を想定すると、切断処理等の倒木の処理が求められる。
③工作物等付 帯施設	泥浄化や洗堀に対する対策工に関するものはなし サイン 13箇所(鳥獣保護区看板英語表記)/ ロープ等 6箇所 / ゲート、その他 5箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 山頂看板やベンチの老朽化がめだつ。ベンチは安全性も考慮し撤去することが望ましい。設置されているロープも機能していないものがあり、撤去が望ましい。 ➢ 登山道における方向表示等のサインが乏しく、施設の立ち入り禁止区域等には適切な誘導表示が必要。 ➢ 新たに看板を設置するさいは外国語併記が求められる。
④安全性の確保	記録地点は特になし
⑤自然環境保全 (保全・影響)	記録地点は特になし
⑥体験の質 (利用の快適性、景観、文化性など)	アクセス 2箇所 / 展望地 1箇所 / 樹名板 5箇所/その他 2箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 山頂の展望は、落葉が進んだ秋であれば可能だが、葉が展開している夏季の眺望は望めない。展望以外で楽しめるよう、植物や地域の歴史等の解説板設置などが考えられる。
⑦利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 登山口が定山溪温泉街から徒歩圏内にあり、気軽に利用できる立地にある。 ➢ 10月の紅葉時期の利用が多いと推測される(図 5-2 より)。
⑧全体評価 等	<p>一般的な評価・対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪温泉街から徒歩圏内にあることから、気軽に利用されることを想定して、倒木を処理する、段差を小さくする等、快適に登山ができる歩道の状態を維持することが求められる。 ・登山道の魅力を高めるために、山頂からの眺望を確保することが望まれる。伐採の要件等の調査、検討が必要である。

①登山道	夕日岳登山道 定山溪神社コース
②登山道 荒廃状況	泥浄化 2箇所 対策工として 土のう敷、幹枝敷、の対策が施されていた。
③工作物等付 帯施設	泥浄化の対策工 2箇所(幹枝敷 1、土のう敷 1) サイン 10箇所(外国語表記なし)/ ロープ等 4箇所 / ゲート、その他 5箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 山頂看板やベンチの老朽化がめだつ。ベンチは安全性も考慮し撤去することが望ましい。 ➢ 新たに看板を設置するさいは、外国語併記が求められる。
④安全性の確保	記録地点は特になし
⑤自然環境保全 (保全・影響)	記録地点は特になし
⑥体験の質 (利用の快適性、景観、文化性など)	アクセス(駐車場) 1箇所 / 展望地 1箇所 / 樹名板 1箇所/その他 3箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ みはらし台の展望は、落葉が進んだ秋であれば少しは可能だが、全般に眺望は望めない。周辺の伐採の可能性についての検討が求められる。山頂の広場は周囲が森林となっていることから、休憩地としての利用が想定される。 ➢ 散策的利用を考慮し、登山口近くのカツラ巨木や、沢の樹林等自然観察ポイントを活用することが考えられる。
⑦利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 登山口が定山溪温泉街から徒歩圏内にあり、気軽に利用できる立地にある。 ➢ 10月の紅葉時期の利用が多いと推測される(図 5-2 より)。
⑧全体評価 等	<p>一般的な評価・対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定山溪温泉街から徒歩圏内にあることから、気軽に利用されることを想定して、登山道ではあるが、散策路に近い状態(倒木を処理する、段差を小さくする等)が望まれる。 ・登山道の魅力を高めるために、温泉街を望む、みはらし台からの眺望を確保することが望ましいが、そのための要件等の調査、検討が必要である。

①登山道	イチャンコッペ山登山道
②登山道 荒廃状況	洗堀 6 箇所 / 倒木・かかり木 4 箇所 洗堀箇所が連続する箇所があり、段差処理や登山道の流水対策が必要になっている。
③工作物等付 帯施設	サイン 5 箇所(外国語表示なし) / その他 4 箇所 看板等の工作物が少ないが、今後は洗堀への対策工(段差処理のためのステップ設置等)が求められる。新たに看板を設置するさいは、外国語併記が求められる。
④安全性の確保	記録地点は特になし
⑤自然環境保全 (保全・影響)	記録地点は特になし
⑥体験の質 (利用の快適性、景観、文化性など)	アクセス(駐車場) 1 箇所 / 展望地 3 箇所 / 展望地・休憩地 3 箇所/その他 3 箇所 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 駐車場は登山口に近い国道沿道にあり、車でのアクセスがよい。 ➢ 登山道からの眺望は、支笏湖を望むことができ、ロケーションに恵まれている。山頂手前の展望ができる広場では、支笏湖のほか、樽前山や風不死岳、恵庭岳と湖と火山の景色を一望できる。
⑦利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 登山口が駐車場に近く、通年の利用が見込まれる。 ➢ 春から秋にかけて夏季だけでなく、積雪期の利用も多いと推測される(図 5-2 より)。
⑧全体評価 等	<p>全般的な評価・対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道駐車場からのアクセスもよく、登山道は一本道でわかりやすい。登山道からは、支笏湖をはじめ恵庭岳、風不死岳、樽前山の眺望も楽しむことができる。今後利用が増えると推測されることから、外国語併記のコース表示板の設置、登山道の洗堀箇所対策、オーバーユース対策(利用の集中による混雑等)の検討が望まれる。